

NEWS LETTER

2014. 4月号

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます。



NewsLetter 2014年4月号 vol.43
2014年4月29日発行

Editor 永田久美子、金澤英樹(本学職員)
Art Director 渡邊哲意(本学准教授)、芦谷耕平(本学講師)
Designer 小野寺真央(イラストレーション領域4年)
松波恵(イラストレーション領域4年)



HOT TOPICS

上原愛弓助手の「不忠の春」、
『週刊ビッグコミックスピリッツ』に掲載!

卒業生 川上祐樹さんの「ギグガキ」
WEBコミックで新連載スタート!

「ジョジョの奇妙な冒険」アニメ 芦谷講師が総作画監督補佐に
東京ビッグサイトでの熱い2日間、「AnimeJapan 2014」に出展!

春のオープンキャンパスで松本零士教授が特別講演
本学学生が自主制作するマンガ雑誌「NEO」Vol. 5を発刊!

小説「Mr. Fugu」の挿絵を福留由加莉さんが担当
2014年度入学式を挙行

授業紹介

映像メディア論 田島悠史専任講師



東京新宿キャンパス
東京メディア・コンテンツ学部|大学院
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号
TEL:03-3367-3411
FAX:03-3367-6761
E-Mail:tokyo@takara-univ.ac.jp



表紙イラスト
中野市松「晦」

上原愛弓助手の「不忠の春」 『週刊ビッグコミックスピリッツ』に掲載!

川上祐樹さんに聞きました!

始まりは2年前、テレビ朝日系列「学生ヒーローズ」の企画で、初めて4コママンガを描いたのがきっかけでした。その後双葉社「週刊アクション」の編集者の方から「まずは新人賞をとって」と言われ、第12回漫画アクション新人賞佳作を受賞。その後「連載いきましょう!」という話が出てきました。4コマとはいえ1回6ページ、2週間ごとに更新しますから、大変です。夢は僕のマンガをアニメ化してもらいたい!マンガ家として食べていこうと決めたので、これを機にがんばります!

本学マンガ領域の上原愛弓助手(ペンネーム:川端新)の読みきり28ページ作品「不忠の春」が、『週刊ビッグコミックスピリッツ』18号(3月31日発売)に掲載されました。この作品は、大正時代から昭和初期にかけての陸軍幼年学校を舞台に立派な軍人になることを夢見た少年の物語。幼年学校で出会う先輩の考え方に影響され、「義とは何か? 忠誠とは?」と悩みながら成長していく少年の姿が美しく描かれています。ぜひ応援してくださいね。

より印象的な表情にするため、目のキラキラ度には気合を入れたそうです。

宝塚大学在学中は軽音楽部に所属していた川上さん。その経験がそのまま生きた、小学生バンドストーリー。



WEBアクション
川上十億「ギグガキ」
毎月第1第3金曜日更新!!



<http://webaction.jp/webcomic/giggaki/>

双葉社の「WEBコミックアクション」で本学マンガ領域卒業生、川上祐樹(ペンネーム:川上十億)さんの連載「ギグガキ」がスタートしました(4月4日)。小学4年生の主人公「川下ゆきち」が一人の女の子と出会い、彼の日常が変わっていくストーリーを軽快な4コママンガで展開しています。今後は2週間に1回更新します。ぜひご期待ください。

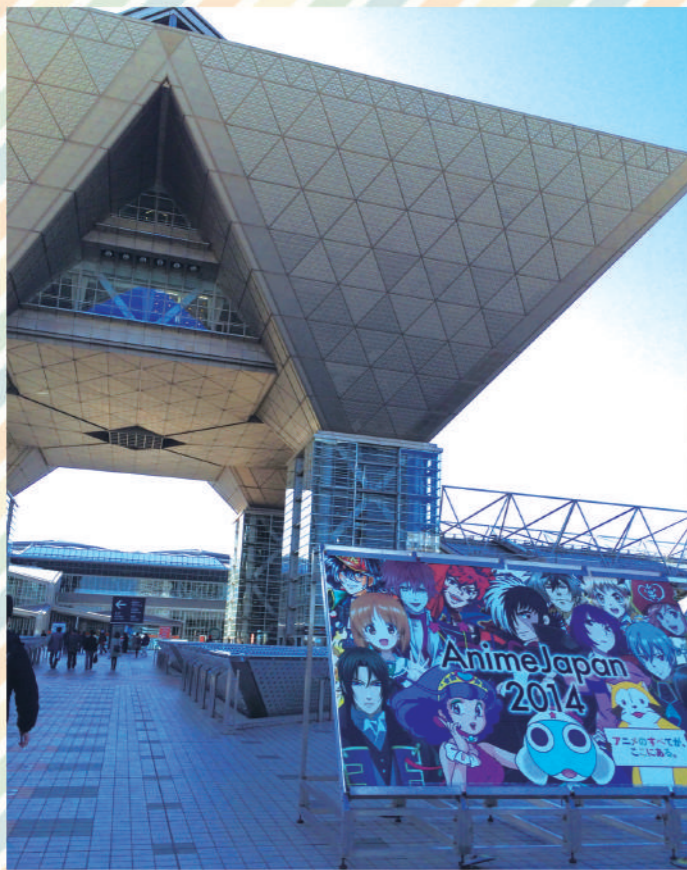
卒業生 川上祐樹さんの「ギグガキ」 WEBコミックで新連載スタート!



上原助手に聞きました!

きっかけは2月開催のコミティアでした。私の作品を読んだ編集者の方に「青年誌で描きませんか?」といわれ、正直驚きました。この雑誌のターゲットは20~30代の男性なので、「私でいいんですか?」と。でも「バレンタインの日に編集部にチョコが届くような主人公を描いてほしい」といわれ、女性読者を意識しているとのことでしたので、お受けすることに。「作品は人に見てもらいたい」を身をもって実感しました。

東京ビッグサイトでの熱い2日間、「AnimeJapan 2014」に出展！



アニメ業界最大のイベント「AnimeJapan 2014」(3月22～23日、東京ビッグサイト)に、今年も本学のブースを出展しました。ブースでは、アニメーション領域の卒業制作作品をはじめ、2・3年生(2013年度)による「歌のアニメーション」の上映、個人制作作品のイメージボードや原画、背景などの素材を展示。学生たちは思い思いのコスプレでアニメキャラクターに扮し、興味深そうに声をかけてくる来場者に作品の説明をしながら、自分たちも楽しく参加していました。このイベントの来場者数は2日間合計で11万人を越え、昨今のアニメ業界の勢いを感じさせる大変な盛況となりました。



「ジョジョの奇妙な冒険」アニメ 芦谷講師が総作画監督補佐に

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

荒木飛呂彦氏原作のマンガ『ジョジョの奇妙な冒険』のTVアニメ第3部『スターダストクルセイダース』が4月4日よりスタートしています。この作品は1987年に「週刊少年ジャンプ」で連載が始まって以来、26年間の長きにわたり、コアファンに熱烈に支持されてきました。根底には「友情・努力・勝利」という少年漫画のセオリーが流れながらも、表面上はそれを逆にとったシニカルな描写で、実験的な表現も多い作品です。昨年放映された第1部と第2部では話数作画監督として参加した本校芦谷耕平専任講師が、今回の第3部より総作画監督補佐として参加しています。



芦谷講師に聞きました！

小学生のころから大ファンだったこの作品のアニメ化により深く関わられるようになって幸せです。第3部では、子から孫へ主人公ジョジョが移り変わり、超能力に初めて「スタンド」という名前がつきます。原作者の荒木氏は、ジョジョから離れている相手をただ倒すのではなく、間にキャラクターが介在する見せ方をしています。当時はこれが非常に新しく、今の能力ものバトルマンガの原点といえます。アニメ化にあたっては、コアファンを満足させる作り方にこだわっていますが、中高生など若い層にファンの裾野が広がってきたのは嬉しいですね。一本の線に込められた熱い気持ちをぜひ読み取りながら見ていただきたい(笑)。僕自身の夢が実現できたように、学生の皆さんには「好き」を大事にして夢を追いかけてほしいと思います。



作画作業をしている芦谷講師を直撃ッ！！



本学学生が自主制作するマンガ雑誌 「NEO」 Vol.5を発刊!



最優秀賞…「晦(みそか) 中野市松さん
優秀賞…「気になるアイツと××騒動」幸奈ふなさん
優秀賞…「俺のプライド、金魚くらい」大川すだちさん
奨励賞…「藤鬼-ふじき-」琴桜さん
奨励賞…「猟奇の新聞部 GOSSIP」藤津一

テーマは自由、一話読み切りの本学学生による11作品。



年に一度、本学のマンガ領域の学生たちが自主制作する雑誌「NEO」Vol. 5が発刊されました。昨年4月より編集部員を募り、5月には7人の編集部メンバーが決定。夏休み前から校内でマンガ作品を募集し、マンガ領域の先生方と編集部員で批評会を実施。選ばれた受賞作品を中心に掲載しています。作品の募集、選抜、編集…といった一連の雑誌制作を学生主体で行い、今回も読み応えのある1冊となりました。企画ページも充実しており、校内での評価は上々の様子です。今後は「コミティア」など外部イベントでの販売も予定しています。

編集委員に聞きました!

編集作業に一から関わることになるので、編集者の視点で作品を見て、多くのことに気づきます。例えば「読みやすく編集作業のしやすい線の太さ」とか「枠をはみ出さない絵の配置」といったことですね。作品は描いたら終わりではなく、人の目に触れる形にしていかなければなりません。「NEO」の編集作業で学んだことを、今後、自分の作品にも生かしていきたいです。

河野真美さん(千葉県立八千代高校出身 写真左)
小野沢莉奈さん(八洲学園大学国際高校出身 写真右)

春のオープンキャンパスで 松本零士教授が特別講演

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定



春のオープンキャンパスで、松本教授による特別講演「少年の日からとにも大航海を続けるキャプテンハーロック」を開催しました(3月23日 新宿キャンパス)。松本教授は少年時代に描いたマンガ作品を通して、貧しくも楽しかった当時を振り返り、「THE COCKPIT」「宇宙海賊キャプテンハーロック」などのアニメ作品を解説しながら「強いメッセージがないと作品は成り立たない」と力説。また会場の高校生たちに向けて「あらゆる本を読みなさい」「すべての体験が参考資料になる」「写真ではなく可能な限り本物を見て描くように」といった教が飛んでいました。ファン世代の保護者の皆様の反応も熱く、講演後は撮影会となり、会場は終始、熱気に満ちていました。





「誓いの言葉」を述べる坂井千洗さん

2014年度入学式を挙行

入学生誓いの言葉（一部抜粋）
平成23年3月11日に、東北地方を襲った東日本大震災から3年が過ぎました。甚大な災害から、復興をすすめていくなかで、芸術の持つ意味と、その役割の重要性を知りました。そして、私たちが担う未来の表現者としての使命に、身の引き締まる思いであります。（中略）私たちは、私たち自身の夢を実現するために、一杯の努力をするとともに、社会に貢献できる人間になれるよう勉学に励み、学生生活が実りあるものとなるよう、努力することをここに誓います。

2014年度の宝塚大学入学式が、ハイアットリージェンシー東京（新宿区西新宿）にて3日に挙行され、新たに91人の新生を迎えました。
式では、大学生活への期待に目を輝かせる学生たちを前に、小清水漸学長と松本零士教授より、入学の祝辞と学生としての心構えについて話がありました。また新生を代表して、マンガ領域坂井千洗さん（武蔵丘高校出身）が、誓いの言葉を述べました。



祝辞を述べる小清水漸学長



HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

福留さんに聞きました！

著者ヨアンナさんのご主人と私の父は古くからの友人で、私が高校時代に描いていた文芸雑誌の表紙などもご覧になっていました。奥様のヨアンナさんは以前から私の絵をとて気に入ってくださっていたので、今回の挿絵のお話はうれしかったですね。難しかったのは、ポーランド語で内容が読めないで、ヨアンナさんに聞いたざっくりとした内容のみを頼りに描いた点です。主人公の日本人男性が浮気性で高慢だという人物設定を聞き、「日本らしさ」と「高慢」を結びつけるなら天狗しかない」とこのモチーフを思いつきました。

小説「Mr.Fugu」の挿絵を福留由加利さんが担当



東京在住のポーランド人作家 ヨアンナ・シゲノブさんの処女小説「Mr.Fugu」の挿絵を、本学イラスト領域4年生の福留由加利さん（富士見丘高校出身）が手がけました。物語は、ポーランドの首都ワルシャワで異国の男女が文化の違いを認め、優しさと思いやりで乗り越えながら生きていくさまを描いた作品。著者のヨアンナさんが福留さんのイラストを以前から高く評価していたことから、今回「ぜひ挿絵をお願いしたい」と声がかかったとのこと。この本は、本学7階の図書室にて見ることができます。



ワルシャワの地域新聞では「Mr.Fugu」が一面記事で取り上げられました。



福留さんの挿絵が随所に。カラフルなイメージが膨らみます。

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

オープンキャンパス



日時：6月1日(日)、6月22日(日)
13:00～16:00
会場：宝塚大学 新宿キャンパス

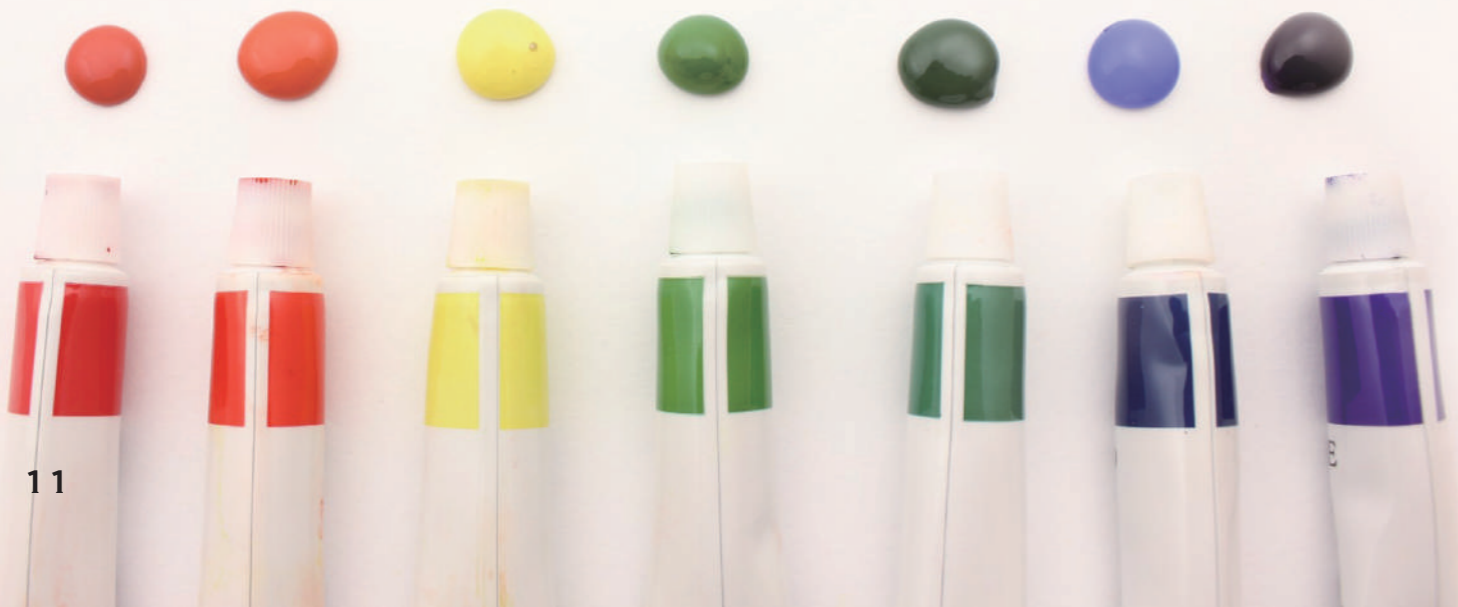
主な内容：大学紹介、入試説明・相談
領域紹介、ワークショップ、相談コーナー
在学生とのフリートーク、保護者相談会など

幻想芸術展 —東京— 2014



※高田美苗講師参加

日時：5月4日(日)～5月10日(土)
11:00～19:00(最終日17:00まで)
会場：東京交通会館2Fギャラリー
主催：国際幻想芸術協会



HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

最先端の映像表現を 見て触ってつかむ

映像メディア論

専門選択科目
担当教員：田島悠史専任講師



★田島悠史専任講師プロフィール
東京藝術大学大学院映像研究科修了。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程単位取得退学。明治学院大学非常勤講師、嘉悦大学非常勤講師、慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員(訪問)ほか。主な論文に「小規模アートプロジェクトにおける持続性とコミュニケーション構造の関係」(共著)がある。

「映像って何？」と聞いたとき、多くの人は「テレビとか映画とか」と答えます。でも今は、それ以外のメディアや表現がたくさんあります。この授業では、それらの紹介とその実践を行います。最近「見る人の動きによって生まれる」映像作品が増えていきます。例えば、自動販売機がディスプレイになって、前に立つ人ごとに「あなたへのオススメ」を表示したり、街灯に設置されたカメラが歩行者の動きを読み取り、それに合わせて動く映像を流すなどの試みもあります。野外作品では2012年の東京駅プロジェクト「シヨンマッピングが記憶に新しいですね。また情報をビジュアライゼーション(視覚化)するユニークな映像作品も数多く出てきています。そんな最先端のメディアアートをみて、「映像とは映画とテレビとYouTubeだけじゃない」ことを、まずは知ってほしいと思います。

この授業の進め方としては、①様々な映像作品の紹介 ②実際に触れて作ってみる ③外に出て体験するの3本を中心に据え、少人数だからこそできる授業にしていきたいです。また、どんな外に出て、世界的なメディアアートの美術館ICC(NTTインターコミュニケーション・センター)をはじめ、多くの映像作品を見ていきます。ここ新宿は、見るにも、撮影するにも、面白い場所がたくさんあります。新宿という環境が活きる授業にしていきたいです。ソチオリンピックの開会式で、床面に投影された映像は実に驚くべきものでした。2020年、次のオリンピック開会式はそれをしるべき作品になるはず。2020年に映像の仕事をしていきたいなら、そうした先端的なメディアと映像表現について知って、触れて、スキルを身につけておくことが、これからの大きな武器になると思いますよ。

映像はテレビと映画とYouTubeだけじゃない

新宿という最高の環境を活かした授業に